

馬町空襲の史実後世に



「馬町爆撃を語ろう会」(仮称)を立ち上げ、史実を伝えるための活動を話し合うメンバー＝京都市東山区・元東山小

住民が「語ろう会」立ち上げ 情報収集、碑設置へ

地元で起きた空襲の史実を後世に伝えようと、京都市東山区の修道学区の住民らが市民団体「馬町爆撃を語ろう会」(仮称)を立ち上げた。1945年1月16日の馬町空襲は今も被害が不

東山

明確で、伝承するための碑もない。当時を知る体験者が減り、「地域の悲劇が忘れ去られる」と危機感を抱いた住民たちが史料の収集保存とモニュメント設置を目指す。

馬町地域は京都府内で初めて空襲があった場所。死者は府の記録では34人だが、市民団体の調査では41人になる。戦時中に被害状況が機密扱いされた影響もあり、複数の爆撃地点が未解明のまま今日に至るなど実態が十分に把握されていない。当時子どもだった世代が70〜80代になる中、馬町地域に住む酒谷義郎さん(78)が「聞き取りができるうちに史実を掘り起こそう」と呼び掛け、今年1月に馬町空襲について語る集いを開催。府内外

から約90人の参加があり、爆撃音や火災の広がりなど見聞きした体験を証言した。

今月16日夜に爆撃地の一つの元東山小で開いた2回目の集いにも市民を中心に約30人が出席。関心の高まりを一過性で終わらせないため、市民団体として活動を始めることに参加者が合意した。当面の活動の柱として、米

(高元昭典)